

足利市議会議員

いつもありがとうございます。

金子ひろみ通信

【発行元】〒326-0053 栃木県足利市伊勢町二丁目6-14 TEL&FAX 0284-42-8747
ホームページ kanekohiromi.com E-mail info@kanekohiromi.com

vol.13



ごあいさつ

令和元年5月より、私の市議会議員3期9年目の活動がスタートしました。誰もが笑顔で安心して暮らせる街へ!日頃よりご支援いただいている皆様のご期待に答えられるように、初心に戻り、日々学び続ける姿勢を忘れないように取り組んでいきたいと思っています。

足利市では、2019年4月よりJR足利駅の中に、足利市移住・定住センター『Aidacco(あいだっこ)』がオープンしました。観光情報の発信、移住定住相談、婚活支援、休憩スペースの機能のある、新しい拠点です。これを起爆剤として、JR足利駅前地域の活性化につなげていきたいと考えています。

● 議会レポート ●

平成31年 3月定例議会一般質問

1 教育行政について

(1) 学校の働き方改革 (2) 学校規模の適正化等

2 子供を取り巻く環境

(1) 子どもを預かりやすい環境の整備

3 遊休資産の活用について

(1) シェアリング・エコノミー

令和元年 6月定例議会一般質問

1 まちづくりについて

(1) 足利市移住・定住センターの開設と駅前の活性化策 (2) 公営住宅

2 こどもを取り巻く環境について

(1) 小・中・高校の連携 (2) 放課後児童クラブ

3 福祉行政について

(1) ひきこもり支援

平成31年 3月定例議会 一般質問 ピックアップ

1 教育行政について

(1) 学校の働き方改革▶▶▶働き方改革を実施して授業に集中できる環境を!

Q

文部科学省でも学校の働き方改革が進められている。栃木県のアンケートによると、1日2時間以上の残業をしている教員は71.2%、4時間以上は17.5%となる。足利の働き方改革の取り組みは?

A

教育長:勤務時間の適正化、意識改革、業務改善、部活動指導の負担軽減、学校運営体制の充実を5つの柱として、学校補助職員の配置、会議時間の短縮、送付文書の精選、研修会の持ち方の見直し等を通じて、教員が子どもと向き合う時間を確保し、本来担う業務に専念できる環境づくりに努めている。

解説ポイント

足利市でも休養日の設定や外部指導者の活用等を明記した『部活動ガイドライン』の作成(平成30年)、出欠状況把握や指導要状況の一元化・共有化を促す『統合型公務支援システム』の導入(平成31年度)により、教員の働き方改革の一層の推進をしている。



私の意見

アンケートによれば、小中学校の教員の61%が、報告書や文書作成の仕事をもっと減らしたいと思っています。本来の業務である教材研究や授業準備に時間を割いてもらうためにも、働き方改革をしっかりと進めていく必要があります。



(2) 学校規模の適正化等▶▶▶今後の学校のあり方を議論すべき!

Q

足利市人口ビジョンでは、50年後の本市の人口は7万7,000人になり、年少人口は6,700人(現在の3分の1)まで減少するとされている。また、現在1学年が1クラスしかない学校や、複式学級のある学校が存在する。学校の適正規模の考え方、今後の議論の進め方を聞きたい。

A

教育長:本市にふさわしい目指す子ども像を明らかにして、そのような子どもに育てるための学校の果たす役割を明確にし、議論を重ね、子供たちにとってよりよい学校・教育環境の改善をさまざまな観点から検討していく。学校規模については、子供たちにふさわしい学校の姿を明らかにしていく中で検討していきたい。



私の意見

栃本市や佐野市は学校の統廃合と義務教育学校(小中一貫)の導入等の計画を発表している。少子化が進む中、将来学校の統廃合をしなければならないのなら、早めに考えを示してしっかりと議論できる機会を設けるべき。

2 子供を取り巻く環境

(1) 子どもを預かりやすい環境の整備▶▶▶保育士確保支援策を!

Q

都市部を中心に待機児童や保育士不足が問題となっており、保育士の処遇に独自で上乗せする自治体が多い。本市の保育士確保の現状はどうか。市内の保育施設に就労した場合の奨励金制度などを設けてはどうか。

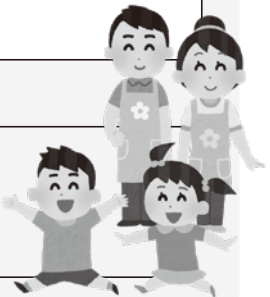
A

健康福祉部長:女性の就業者増加に伴い、保育の需要も高まっており、特に乳児の保育ニーズが高い。民間保育園の途中入園に対応できるよう1歳児担当保育士増員補助事業を実施している。待機児童がいないことから、就労奨励制度の創設などは必要ないとするが、保育士向けの貸付制度などを周知していきたい。



私の意見

足利に待機児童がいないのは、民間保育園が途中入所を柔軟に受け入れている成果です。10月入所児童のための職員を4月から確保しておかなければならない等の現場の声に耳を傾け、支援策が講じられるよう要望していきます。



令和元年 6月定例議会 一般質問 ピックアップ

1 まちづくりについて

(1) 足利市移住・定住センターの開設と駅前の活性化策▶▶▶積極的に関わります!

Q

今年4月にJR足利駅構内に足利市移住・定住センター「Aidacco」が開設されたが、利用状況はどうか。また、駅前の再整備などの具体的な動きはあるのか。

A

総合政策部長:ゴールデンウィーク中の移住・定住センター利用は7,131人、移住相談は前年度比倍以上ある。観光名所への案内や飲食店に関する問い合わせなどにも柔軟に対応していきたい。再整備に関しては、本年5月に「JR足利駅北口再整庁内検討会議」を立ち上げ、現状と課題の整理と今後の在り方についての検討を始めたところである。



私の意見

2018年12月議会の一般質問で駅前再整備の検討を開始するという答弁をいただきました。今後もしっかりと関わっていききたいと思います。



(2) 公営住宅▶▶▶計画的な対応を!

Q

足利市の公営住宅の入居率は75%で、入居率アップのための入居要件緩和が検討されている。しかし足利市の公営住宅は2,190戸。小山市などは約800戸であり、県内でも足利市の戸数は非常に多い。古い公営住宅も多いことから、公共施設等総合管理計画のもと中長期的に取り壊す公共住宅を示して戦略的に取り組むべきではないか。

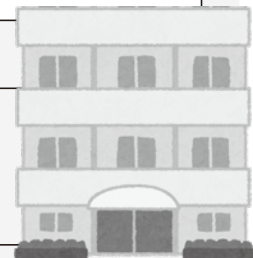
A

都市建設部長:老朽化の激しい市営住宅に関しては、現在入居を停止している。今年度末に公共施設再編計画を策定予定なのでそれに合わせて、将来必要な市営住宅を考え、中長期的な視点をもって考えていきたい。



私の意見

公共住宅を取り壊す場合、政策空き家としてまず入居募集を停止します。その後ある程度まで自然と入居者が減少するのを待ちますが、それには長い年月がかかり、その間も施設の維持管理費が必要です。計画のもと、戦略的に取り組んでいきます。



2 こどもを取り巻く環境について

(1) 小・中・高校の連携▶▶▶新しい高校に積極的にかかわりを!



Q

栃木県教育委員会が策定した『第二期県立高等学校再編計画』では、2022年度に足利高等学校と足利女子高等学校を統合し共学化をする方針が示されている。これを受け、統合に向けた検討を行うための組織が今年設置されるが、本市ではどのように関わっていくのか。

A

教育長:新校設立準備委員会のメンバーは、学校関係者、学識経験者、地元関係者(市役所等)からなっている。魅力と活力ある県立高校となるよう期待している。小・中・高という教育の連続性の中で、子供一人一人が社会的に自立するとともに、自己実現を目指して学び続けることができるよう、各小中学校での指導の充実に向け関わっていく。



私の意見

伝統ある足利高校と足利女子高校の2校を統合してできる新校を素晴らしい学校にするため、ソフト・ハード両面に積極的に関わり協力して作り上げていくべき。また、これを機会に、市内の小中学校のあり方(小中一貫教育の導入)や、街づくりも考えていくべきです。

(2) 放課後児童クラブ▶▶▶預かりやすい環境と保育の質の充実を!

Q

放課後児童クラブの設備や運営に関して条例制定されてから5年が経つ。面積基準などに設けられた経過措置の期限は今年度だが、基準を満たしていないクラブはあるのか。最適基準の向上のための取り組みは? 頑張っているクラブが評価される仕組みができないか?

A

健康福祉部長:面積基準を満たしていないクラブが53クラブ中1クラブあるが、今年度中に基準を満たす予定である。支援員の資質向上のため、食物アレルギー・防犯・障がい児対応などの研修を行っている。開設時間延長や、家庭や学校と情報交換を行う職員を配置しているクラブが利用できる処遇改善事業を行っている。今後さらに事業の充実ができるよう検討していきたい。

Q

本市では国の補助が充実する前から独自の委託基準を設けてクラブを支援してきたが、近年は国の『子ども・子育て支援交付金』が足利の基準を超えて充実してきている。国の基準に合わせるべきではないか。

A

健康福祉部長:国基準に合わせると、現在市独自で行っている「家賃補助」がなくなってしまうため、補助額が下がるクラブが出てしまう。相談しながら進めていきたい。



私の意見

放課後児童クラブは条例化されて5年目だが、これからは最適基準を満たすことではなく、質の向上を考えなければならない。実際、クラブの充実が移住に結びつくこともあり、足利のシティプロモーションの視点からも重要施策である。

3 福祉行政について

(1) ひきこもり支援▶▶支援策の充実を!

Q

最近ひきこもり支援に社会の目が向きつつあるが、相談できること、支援策があることをもっと広報できないか。ひきこもりの方の就労に理解ある企業との連携を推進してはどうか。ひきこもりサポーターを活用して積極的に支援を展開してはどうか。

A

健康福祉部長:家庭で抱え込まず相談することが重要と考える。ポラリスとちぎ独自の支援事業などもしっかりと広報していきたい。とちぎ若者サポートステーション(宇都宮)ではひきこもりの方の就労に理解ある企業と連携しているので、本市でもこの考えを広めていきたい。ひきこもりサポーターが3名いるので、サポーター派遣の相談・要望があった場合には対応していきたい。



ポラリス☆とちぎ

栃木県宇都宮市下戸祭2-3-3 電話028-643-3422 メール:soudan@polaris-t.net

ひきこもり、ニート、不登校など様々な悩みや困難を抱える子ども・若者とそのご家族の支援をしています。ひきこもりに関しては、子ども・若者に限らずどなたでも相談できます。栃木県が委託展開している事業で、宇都宮ですが電話相談も可能、家族セミナーなども開催しています。

ピックアップ足利

移住・定住相談センター『Aidacco(あいだっこ)』



足利市移住・定住相談センター(通称:Aidacco)がJR足利駅構内に2019年4月オープンしました。移住・定住相談、観光案内や足利のPRを行い、休憩所としてもご利用いただけます。今後、県と連携して結婚活動支援機能も設置予定です。営業は10時~18時、水曜日定休。

競馬場跡地にビーチコートを整備!

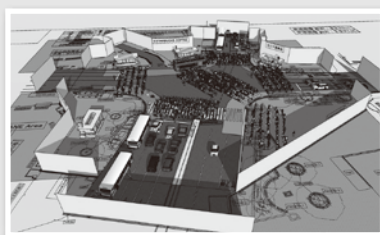


2022年に『いちご一会とちぎ国体』があり、足利市では、レスリング、ソフトボール、ボウリング、ビーチバレーボール、スポーツ吹矢、パークゴルフが開催されます。栃木県内にはビーチバレーのできるコートが無いので、強化練習のできる場所として、競馬場跡地にビーチコートが整備されました。7月20日のオープニング後は、国体強化練習を優先しながら、空いている日は一般利用可能となります。ビーチバレー以外の利用でも大丈夫です。早速利用の問い合わせが来ています。詳しくは市民スポーツ課(Tel20-2232)まで。

ビーチコート:40m×28m(ビーチバレーコート2面分)、深さ40cm

競馬場跡地に、渋谷のスクランブル交差点が!

競馬場跡地の一角に、撮影のための『渋谷スクランブル交差点』のオープンセットが作られることになり、現在工事が進んでいます。今後、映画やドラマなど複数の作品が撮影される予定です。お楽しみに!



足利市議会議員 金子ひろみ

【プロフィール】●昭和54年足利市伊勢町二丁目生まれ ●相生小学校、第三中学校、栃木県立足利女子高校卒業 ●中央大学商学部経営学科卒業 ●スリランカ、ガーナ、ミャンマーでボランティア活動を行う ●青年海外協力隊として南米ボリビアにて、コーヒー栽培普及・収入向上プロジェクトに携わる ●介護施設で勤務、社会福祉士国家試験に合格 ●平成23年4月 足利市議会議員に初当選 ●平成24年に結婚、二児の母 ●平成31年4月 足利市議会議員に3期目当選

〒326-0053 栃木県足利市伊勢町二丁目6-14

TEL&FAX 0284-42-8747

メールアドレス info@kanekohiromi.com

ホームページアドレス kanekohiromi.com

Twitterで @sari_hiromi をフォロー!